

自己評価			学校関係者評価		次年度への課題と今後の改善方策	
重点課題	重点目標	評価指標・活動計画	評価	学校関係者の意見		
〔1〕 特色ある学校づくりの推進	*豊かな心を身につけた生徒の育成  *たくましい力を備えた生徒の育成  *大きな夢に挑戦する生徒の育成	<p><b>評価指標</b></p> <p>①生徒の人権意識を高める教育活動を行うとともに、生徒間の良好な仲間づくりを行う。</p> <p>②生徒の学力を伸ばす学習指導を行うとともに、生徒の学習意欲を高める指導を行う。</p> <p>③適切な体験活動（自然体験、文化体験等）を行うとともに、生徒が学校行事や体験活動に積極的に取り組むように指導する。また、生徒の国際理解を進める教育活動を行う。</p>	<p><b>評価指標による達成度</b></p> <p>・〈保護者アンケート〉「学校は生徒の人権意識を高める教育活動ができている」 92.5%（R2：90.7%，R1：90.7%） 〈保護者アンケート〉「学校は生徒間の良好な仲間づくりができている」 89.4%（R1：85.0%，R1：91.5%）</p> <p>・〈保護者アンケート〉「学校は生徒の学力を伸ばす学習指導ができている」 84.3%（R2：84.6%，R1：82.2%） 〈保護者アンケート〉「学校は生徒の学習意欲を高める指導ができている」 80.2%（R2：76.7%，R1：78.8%）</p> <p>・〈保護者アンケート〉「学校は適切な体験活動ができている」 61.7%（R2：72.6%，R1：96.2%） 〈生徒アンケート〉「学校行事や体験活動に積極的に取り組んでいる」 88.1%（R2：87.9%，R1：87.1%） 〈保護者アンケート〉「学校は生徒の国際理解を進める教育活動ができている」 66.1%（R2：80.5%，R1：95.3%）</p>	<p><b>総合評価</b></p> <p style="text-align: center;"><b>B</b></p> <p>（所見）</p> <p>・新型コロナウイルス感染症に関わる休校や行事中止の影響もあり、保護者アンケートの評価では全20項目中で前年度比upは9項目（昨年5項目）だったが、改善すべき点も少なくないが、工夫と協力による成果も見えた。</p> <p>・新型コロナウイルス感染症に関わる休校や行事中止の影響もあり、生徒アンケートの評価では全17項目中で前年度比upは12項目（昨年2項目）だったが、生徒は授業や活動等に前向きに取り組み、意欲も向上している。</p> <p>・アルフレッド・ディーキンハイスクールとの交流がオンラインで継続できたことは大きな意義がある。</p> <p>・開校当初から取り組んでいる朝夕の富東タイム、RRC、環境学習・人権学習を中心とした社会貢献プロジェクト、リサーチ&amp;レポート、課題研究発表等は少しずつ進展している。</p> <p>・困難な状況の中、中高が連携して取り組む行事を通して相互理解も深まり、「チーム富東」の意識も高まっている。</p>	<p>○開校年度に始まったオーストラリアとの交流活動が、コロナ禍の中でもオンラインで継続されていることに安心しています。世界に目を向ける活動はこれからの時代を生きる生徒にとって、必要性が増えています。ぜひ続けていってください。色々と活動が制限され、苦勞も多いと思いますが、先生方が工夫され、生徒たちのために一生懸命やっておられる姿に心より感謝しています。</p> <p>○今後も「特色ある学校づくりの推進」を継続し、組織的・計画的な取組を充実させてください。</p> <p>○富東タイム、RRC、リサーチ&amp;レポートは、富東の特色であり、継続していくことは大切です。加えて、そろそろ何か新しい取組を始める時期がきているようにも思います。中高一貫教育校としての特色、富東カラーが出せる取組があればいいと思います。</p>	<p>&lt;課題&gt; 「心・力・夢を育てる中高一貫教育」を実現するため、特色ある学校づくりをさらに推進していく。</p> <p>&lt;方策&gt; ○中高の生徒・教職員の交流充実により、併設型中高一貫教育校としての利点を生かした魅力的な教育活動を改善・推進していく。</p> <p>○各分掌・学年・教科で生徒の学力向上につながる効果的な行事等を精選して実践していく。</p> <p>○アルフレッド・ディーキンハイスクールとの国際交流をさらに改善・推進していく。ホストファミリー等との継続的な交流も学校がサポートしていく。</p> <p>○豊かな国際性を育成するため、県や国の文化について理解を深める学習もさらに改善・充実させていく。</p> <p>○将来の夢の創造につながる職場体験などキャリア教育の取組をさらに改善・推進する。</p> <p>○富東タイム、RRC、社会貢献プロジェクト、リサーチ&amp;レポート等、富岡東中学校ならではの取組をさらに改善・充実させていく。</p>
		<p><b>活動計画</b></p> <p>・人権教育で人権尊重の意識を高め「共に生きる」姿勢を育てる。</p> <p>・中高一体の学校生活で社会性や豊かな人間性を育てる。</p> <p>・中高一貫の系統的な教科学習で確かな学力を育てる。</p> <p>・きめ細やかな個別学習学習で意欲と主体性を高める。</p> <p>・体育・健康教育で自己を鍛え、健やかな身体を育む。</p> <p>・体験活動で地域と連携し幅広い社会的視野と国際性を育てる。</p>	<p><b>活動計画による実施状況</b></p> <p>・各学年の個別人権課題に応じ、学年別の人権講演会を行った。</p> <p>・中高一体の学校生活は社会性や人間性育成につながっている。富東祭（文化祭）は動画配信等の工夫と協力で実施できた。</p> <p>・富東タイム、RRC等、6年間継続の取組や、中高教員の柔軟な指導体制による習熟度に応じた学習指導を行っている。</p> <p>・ESDやリサーチ&amp;レポート等の探究活動中心に意欲と主体性を高めている。</p> <p>・保健体育の授業、給食指導、食育、衛生指導等を充実させている。</p> <p>・体験活動の多くは中止したが、姉妹校アルフレッド・ディーキンハイスクールとの交流はオンラインで行った。</p>			

重点課題		自己評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標・活動計画	評価	学校関係者の意見	
〔2〕 家庭・地域社会との連携による「開かれた学校づくり」の推進	＊学校評価制度・学校評議員制度の活用と学校の活性化 ＊ホームページや学年だよりのさらなる充実による積極的な情報発信 ＊PTA、地域社会とのさらなる連携	<b>評価指標</b> ①学校評議員会・関係者評価委員会を開催して教育活動の改善を図る。 ②ホームページアクセス数が年間12万件以上になるようにする。 ③学年だよりを各学年で年間11回以上発行する。 ④PTA組織を活性化し、各専門部の活動・自主活動を充実させる。 ⑤阿南市内の小中学校・教育機関との連携を図る。	<b>評価指標による達成度</b> ・学校評議員会・関係者評価委員会を文書開催するとともに総括評価表はホームページでも公開している。 B ・ホームページへのアクセス数は年間28万件以上の見込みである。 B ・各学年で学年だよりを年間11回以上発行予定である。 B ・PTA活動の多くは中止したが、オンラインや文書も活用し、連携・協力して教育活動を行っている。 B ・オンラインや文書も活用し、小中学校・教育機関との連携を図っている。 B	<b>総合評価</b> <p style="text-align: center; font-size: 2em; font-weight: bold;">B</p> (所見) ・開催された阿南市中学校教育研究会の授業研究会に参加するなど、各学校や教育機関との連携は維持している。 ・保護者が参加できる行事等の中止により、活動の充実は難しかったが、中高の連携したPTA組織体制により、保護者間の連携は維持している。 ・保護者が期待した教育活動ができず、保護者アンケートで、「学校は学校行事や授業参観等、保護者が参加できる機会を適切に設けている」51.8%（昨年度66.7%） 「学校は学校の様子を学校・学年だよりやホームページ等で適切に伝えている」90.3%（昨年度92.1%） 「学校は保護者に学校の方針や教育活動のねらいを適切に伝えている」82.9%（昨年度85.5%） 「学校は保護者と協力して教育活動を行っている」72.9%（昨年度74.6%）と大きく下降した。新しい生活スタイルにおける新しい連携のあり方を検討・実践する必要がある。 ・阿南市内の小中学校・教育機関との交流の機会に可能な限り参加できている。	○円滑に進んでいる部分については、評価できる点だが、課題も生じているように思う。with コロナを考える時代の中で、どう対応していくか、教育をどうすすめていくか、方針を明確に示す時期が来ている。合わせて広報も積極的にしていってほしい。 ○コロナ禍だからできるホームページの情報発信は、保護者にとっても大変重要だと思う。 ○休校中の学習の対応について、生徒・保護者の不安を一つずつ解消していく必要があると思う。そのためには、お互いが意見を出し合い、協力してやっていくともっとよりよくなると思う。
		<b>活動計画</b> ・地域の教育力を活用するため学校運営について、有識者から意見を聞き、学校運営に反映する。 ・ホームページや学年だよりで学校行事や部活動の状況等の取組を積極的に発信する。 ・生徒会役員等を中心に地域の様々なボランティア活動等に参加し地域社会との交流を進める。 ・学校行事や授業参観等、保護者が参加できる機会を適切に設ける。 ・三者面談の充実等により、保護者とのコミュニケーションを深める。 ・阿南市PTA連合会の活動に積極的に参加する。 ・阿南市内の小中学校・教育機関との交流の機会に積極的に参加する。	<b>活動計画による実施状況</b> ・地域の教育力活用のため、PTA役員、学校関係者、専門機関等の意見を聞き、学校運営に反映させている。 ・ホームページに学年だより、学校行事、部活動、給食、学校保健等を掲載・発信している。 ・地域社会との交流行事の多くが中止になったが、オンラインや文書も活用し、交流は継続している。 ・学校行事や授業参観等の中止により、保護者が参加できる機会を設けることができなかった。 ・普段の電話連絡を密にするとともに長期休業中に三者面談を実施してコミュニケーションを深めている。 ・阿南市PTA連合会の活動が中止になり参加の機会がなかった。 ・阿南市内の諸行事中止により交流の機会は少なくなったが、積極的な参加・交流はできた。		
		○円滑に進んでいる部分については、評価できる点だが、課題も生じているように思う。with コロナを考える時代の中で、どう対応していくか、教育をどうすすめていくか、方針を明確に示す時期が来ている。合わせて広報も積極的にしていってほしい。 ○コロナ禍だからできるホームページの情報発信は、保護者にとっても大変重要だと思う。 ○休校中の学習の対応について、生徒・保護者の不安を一つずつ解消していく必要があると思う。そのためには、お互いが意見を出し合い、協力してやっていくともっとよりよくなると思う。	○社会貢献プロジェクトの一環としての地域防災訓練や清掃活動、ボランティア活動等で地域住民や保護者との連携を深めていく。 ○生徒・保護者とのコミュニケーションを深め、相談しやすい雰囲気作りに努める。長期休業中の三者面談もさらに充実させる。 ○PTA活動をさらに充実させられるよう、中高PTAの新しい連携のスタイルを検討・実践していく。 ○阿南市内の小中学校・教育機関との交流の機会に積極的に参加し、連携を深めていく。		

自己評価		学校関係者評価		次年度への課題と今後の改善方策	
重点課題	重点目標	評価指標・活動計画	学校関係者の意見		
〔3〕 生徒の自主性の育成と基礎学力の定着。学力向上への取り組みの強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 生徒が意欲的に取り組む授業の創造と、生徒の確かな学力の育成</li> <li>* 指導内容の精選と指導方法の工夫改善</li> <li>* 自ら考え行動し解決できる資質や能力の育成</li> </ul>	<b>評価指標</b> ①研究授業（大研）を年間2回実施する。 ②相互授業参観を年間1回以上実施する。 ③学習意欲がある生徒90%以上。 ④授業に積極的に取り組む生徒90%以上。 ⑤平均学習時間1日2時間以上の生徒70%以上。	<b>評価指標による達成度</b> ・高校と連携を図り年間2回の研究授業を参観した。 B ・相互授業参観をすべての教科担当が年間2回以上実施した。 A ・〈生徒アンケート〉学習意欲が高まっている生徒78.0% (1.7%↓) C ・〈生徒アンケート〉授業に積極的に取り組んでいる生徒90.4% (2.9%↑) B ・〈生徒アンケート〉家庭で2時間以上学習している生徒68.4% (0.3%↑) B	<b>総合評価</b>  <b>B</b>  (所見) ・学習意欲はポイントが昨年度より減少したが、授業への積極的な取組が向上し、評価指標を達成した。また、家庭学習時間のポイントは昨年度とほぼ変わらない結果であった。このことから、授業の積極的な取組を認め、学習の目的意識を持たせることで学習意欲及び家庭学習の向上に向かわせたい。  ・学校力向上及びイノベーション事業に関する研究授業、教員研修に参加し、学力向上のためのICT等の活用に向けて、中高が連携を図り取り組んだ。  ・「富東タイム」の継続的な実施により、英語の聞く力や読む力が定着した。また、俳句を通して情景を表現する力や想像する力を育むことができた。  ・家庭学習の習慣が昨年度から向上したものの、指標には到達しなかった。今後も生徒の個々に応じたきめ細かな指導に努め、家庭学習の習慣づけを行う。	○今年度5月以降、臨時休業の期間があったが、そのときの学習への対応はプリント配布が多かった。今後はもっとオンライン学習を充実させてほしい。日頃から双方向での取組をするなど、さらに研究を重ねてほしい。  ○今後も「生徒の自主性の育成と基礎学力の定着、学力向上への取り組みの強化」を継続し、組織的・計画的な取組を充実させてください。  ○引き続き、「生徒が意欲的に取り組む授業の創造と、生徒の確かな学力の育成」、「指導内容の精選と指導方法の工夫改善」、「自ら考え行動し解決できる資質や能力の育成」を目指してください。
		<b>活動計画</b> ・研究授業・公開授業・外部講師招聘による教員研修等を実施し、指導力の向上を図る。  ・学力向上検討委員会において、生徒の学力向上を図る授業展開や評価のあり方等を検討する。 ・「富東タイム」について、さらに充実した取り組みとなるように努める。  ・RRCの実施や具体的な学習目標の設定により、学習意欲の向上を図り、分からないところを質問する態度を育てる。 ・学習内容が定着していない生徒に対しては、テスト前や放課後の個別指導を実施する。  ・生活実態調査や学習状況実態調査を効果的に実施する。  ・教科担任は計画的・効果的に課題を出し、ホームルーム担任は学習記録表を提出させる等、家庭学習習慣が定着するように努める。	<b>活動計画による実施状況</b> ・高校・大学・県教委と連携を図り、学校力向上をめざした授業づくり及び研究授業の実施、ICTを活用した公開授業を全教科で実施した。 ・学力向上検討委員会が作成した「学力・学習状況改善プラン」に基づいて学習指導の改善を行った。 ・「富東タイム」では漢字学習、俳句の創作、英語リスニング学習などを実施し、漢字検定や英語検定に多数合格するなど着実な成果があった。 ・RRCの実施回数を5回に増やし、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図った。RRCを学力向上に役立てた生徒は87.8% (3.4%↑)いた。 ・生徒からの質問に応じたり、勉強の仕方を助言したり、個に応じた指導を実施した。また、基礎・基本を確認する小テストを実施して学力の定着を図った。 ・学習状況実態調査を実施し、学習時間や携帯電話等の使用時間を調査し、指導に役立てた。生徒が主体的に学習に取り組めるよう生徒会活動の学習委員による学級での呼びかけを計画的に実施させた。 ・毎日2～3時間の家庭学習を推奨し、学習記録表や生活ノートに毎日の学習時間を記録するように呼びかけ、習慣づけを行った。各教科担任が連携し、計画的な家庭学習の一助になるよう、課題の重なり等に配慮した。家庭学習を1日2時間以上している生徒の割合は68.4% (0.3%↑)であった。		
		○中高連携による授業づくり、研究授業等の校内研修を継続し、指導力向上をめざす。  ○本校の実態に応じた、学ぶ意欲の向上につながる評価のあり方について検討する。  ○質問がしやすい雰囲気づくりと、支援が必要な生徒の個別指導を充実させる。  ○将来の夢や目標を意識させるための高校生や卒業生との交流、高校教員による中高接続のための進路指導を計画的に実施する。  ○生活実態調査や学習状況調査を計画的に実施し、調査結果をもとに家庭と連携・協同した指導の充実を図る。			

自己評価			学校関係者評価		次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標・活動計画	評価	学校関係者の意見	
〔4〕 中高一貫教育の円滑な実施	＊中高教員が連携した計画的継続的な指導計画を作成  ＊開かれた学校づくりの推進  ＊心のふれあう校風の樹立	<b>評価指標</b> ①中学生と高校生の交流活動を年間のべ10日間以上実施する。  ②中高教員によるTT指導を週10時間以上実施する。  ③中高連携授業研究会を年間2回以上実施する。  ④中高の教員が一体となって中高一貫の教育課程について検討する。	<b>評価指標による達成度</b> ・富東祭など、中高合同の教育活動をBのべ13日実施した。 <生徒アンケート>高校生と学校生活や行事を共にすることは、自分にとってプラスになっていると感じている生徒84.4% (昨年度比4.9%↓)  ・全学年で保健体育、3年生は英語・B数学・保健体育で、中高教員によるTT指導・習熟度別指導を実施した。  ・相互授業参観を中高合同で実施した。B  ・中高一貫教育推進検討会を開催し、B中高一貫教育の特色を生かした教科指導のあり方について検討した。	<b>総合評価</b>  B  (所見) ・開校12年が経過し、中高一貫校としての形が完成する中で学校行事や部活動など、中高合同の教育活動の実施が定着した。  ・12年の積み重ねを検証し、よりよい教育活動「富東スタイル」を構築していくスタートの年度をきった。  ・教職員の指導体制や研究・研修体制についても中高の共通理解のもと、一体的な運営ができた。  ・中高の企画マルチメディア課を中心として、中高一貫の教育課程の編成など、本校独自の中高一貫教育のシステム構築について検討する体制が充実した。  ・中学校で一緒に活動してきた生徒が、高校へ進学した際の生徒アンケートで、「高校生と学校生活や行事を共にすることは、自分にとってプラスになっている」と答えた者が多くいる。	○中高一貫校として合同での行事等で教育の特色が生かせるようお願いしたい。  ○今後も「中高一貫教育の円滑な実施」を継続し、組織的・計画的な取組を充実させてください。  ○引き続き、「中高教員が連携した計画的継続的な指導計画を作成」、「開かれた学校づくりの推進」、「心のふれあう校風の樹立」を目指してください。
		<b>活動計画</b> ・教科学習を中心とした中高6年間のカリキュラム等について、中高合同の検討委員会等を開催して検討する。  ・企画マルチメディア課(中高)を中心に中学校から高校への接続について本校の教育目標や生徒の実態に即した「富岡東スタイル」を確立する。  ・中高教員の連携による効果的なTTや習熟度別等の指導を充実させる。  ・他校の実践例を研究し、本校の取り組みに生かす。  ・中高の生徒が合同で取り組む活動をさらに充実させる。 ・中高相互の授業見学、研究授業及び研究協議を行う。  ・中高合同の学力向上検討委員会等において、生徒の学力向上を図る授業の展開を検討する。	<b>活動計画による実施状況</b> ・富東祭(文化祭・体育祭)・防災訓練等の学校行事を中高合同で実施した。  ・音楽部・書道部・美術部などの文化部では、中高合同の活動が定着した。運動部では、体力・技能の差に応じて、可能な範囲で活動しており、高校の部活動へのスムーズな移行ができていく部もある。  ・英語・数学・保健体育で高校の教員と中学校の教員が合同で中学校の授業を実施し、その授業を通して高校の教員が中学生の学習内容や到達度を具体的に把握することができた。  ・中学3年生の数学・英語で習熟度別授業を実施し、中高の教員が連携して学習指導に取り組んでいる。  ・(中・高)企画マルチメディア課を中心に、中高一貫教育推進検討会を開催するなど中高合同で教育課程や学力向上に関する取り組みを検討する体制が充実した。		

<課題>  
中高一貫教育校としての12年間の検証と中高6年間を見通した教育活動や組織体制をさらに充実させる必要がある。

<方策>  
○教科学習を中心とした中高6年間のカリキュラム等について、企画課を中心に、検討を継続する。

○富岡東中学校から進学した生徒と高等学校入学者選抜で入学した生徒の状況を様々な側面から分析し、中学校から高校への接続のあり方について検証する。

○中高教員の連携による効果的なTTや習熟度別等の指導をさらに充実させる。

○他校との交流・情報交換や他校の実践例を研究などを本校の取組に生かす。

○中高の生徒が連携し、合同で取り組む活動を充実させる。

自己評価			学校関係者評価		次年度への課題と今後の改善方策	
重点課題	重点目標	評価指標・活動計画	評価	学校関係者の意見		
〔5〕 特別活動の充実と「さわやかで活力あふれる富東」の精神の高揚	<ul style="list-style-type: none"> <li>* あいさつ、マナー等の基本的生活習慣の定着</li> <li>* 食育の推進と心身ともに健全な生徒の育成</li> <li>* たくましく生きる精神力と、心豊かな人間性の育成</li> <li>* 安全教育や防災教育の徹底と事故防止への取り組みの強化</li> </ul>	<p><b>評価指標</b></p> <p>①遅刻ゼロの生徒90%以上。</p> <p>②あいさつがきちんとできる生徒90%以上</p> <p>③部活動の参加率95%以上。</p> <p>④市レベル以上の各種大会・コンクール等での入賞が、年間のべ30人以上</p> <p>⑤食に対する意識が高まった生徒80%以上</p> <p>⑥登下校時の交通事故ゼロ。</p> <p>⑦HR担任と教科担任は、始業チャイムを教室で聞く。</p>	<p><b>評価指標による達成度</b></p> <p>・〈生徒アンケート〉学校に来ることが楽しい 84.7% (昨年度比0.1%down) B                      〈生徒アンケート〉遅刻ゼロの生徒94.7% (1.8%down)</p> <p>・〈生徒アンケート〉あいさつをきちんとしている生徒93% (昨年度比1.2%up) B</p> <p>・部活動参加率95% (227人/239人) B</p> <p>・市レベル以上の各種大会・コンクール等での入賞が、年間のべ205人。 B</p> <p>・〈保護者アンケート〉朝食をきちんと食べて登校している生徒93% (2.2%down) B</p> <p>・自転車通学生の登校時、自動車との接触が1件、物損事故が1件あった。 C</p> <p>・HR担任と教科担任は、始業のチャイムを教室で聞いている。 B</p>	<p><b>総合評価</b></p> <p style="text-align: center; font-size: 2em; font-weight: bold;">B</p> <p>(所見)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>アンケートで「学校に来ることが楽しい」と回答した生徒や遅刻に対する意識の割合が、昨年度と比較して減少している。</li> <li>あいさつに対する意識の割合が、昨年度と比較して上昇している。</li> <li>朝食を食べる生徒がわずかに減少しているが、基本的な生活習慣や規律正しい学校生活に関しては、目標をおおむね達成することができた。校則や言葉遣いなどに関するアンケート結果も昨年度と比較して向上が見られた。</li> <li>生徒同士、あるいは生徒と教師の人間関係も良好で、学校生活への高い満足度につながっていると考えられる。</li> <li>昨年度は中止になった大会もあったが、ほとんどの大会が開催され、運動部・文化部ともに積極的に活動している。</li> </ul>	<p>○富東中へ行きたいと、目をキラキラ輝かせて言っている小学生がいる。親子共々入学に対して強い意思を持っている。ワクワクして入学してくる子どもたちが、入学してよかったと思える学校づくりをより一層推進していただきます。</p> <p>来年度は入学定員が減っている分、より一人一人に目をかけてほしいと思います。</p> <p>○富東中は、いろいろな地域から入学してくるので、友だち作りがとても重要な課題です。今後とも、継続的に生徒たちの心に寄り添いサポートしていただけることを願っています。</p> <p>○引き続き、「あいさつ、マナー等の基本的生活習慣の定着」、「食育の推進と心身ともに健全な生徒の育成」、「たくましく生きる精神力と、心豊かな人間性の育成」、「安全教育や防災教育の徹底と事故防止への取り組みの強化」を目指してください。</p>	<p>＜課題＞</p> <p>自らの安全と公衆道德に対する生徒の意識を高め、さらに学業に集中できるよう生活習慣を改善する必要がある。また部活動のあり方やその運営方法を見直す。</p> <p>＜方策＞</p> <p>○自転車通学や公共交通機関でのマナーを向上させる取り組みを進めるとともに、通学路の交通立哨などの安全指導を充実させる。</p> <p>○高校の部活動との連携や一体的な活動をさらに充実させるとともに中学生の部活動の活動時間や活動場所を確保する。</p> <p>○生活記録を活用し、生活習慣を見直させるとともに、個々の生徒の悩みや学級の問題点を発見し、早期の解決を図る。</p>
		<p><b>活動計画</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あいさつの励行や清掃活動への主体的取り組みを促す。</li> <li>・生活ノートを活用し、個々の生徒の悩みや学級の問題点を発見し、早期の解決を図る。</li> <li>・自転車通学マナーを向上させる取組を進め、通学路の交通立哨などの安全指導を充実させる。</li> <li>・ホームルーム活動、全校・学年別集会を通して、服装・頭髮・マナーについての自覚を高める。</li> <li>・定期的に生活実態調査を実施する。</li> <li>・高校の部活動との一体的な活動や連携を充実させ、活動環境をさらに整備する。</li> <li>・食育通信の発行や給食試食会の開催等、保護者と連携した食育を推進する。</li> </ul>	<p><b>活動計画による実施状況</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・富東生らしいさわやかなあいさつが定着している。清掃活動にもしっかり取り組んでいる。</li> <li>・始業のチャイムと同時に授業を始める習慣は引き続き定着している。</li> <li>・自転車車体検査や街頭交通指導を定期的実施した。</li> <li>・生徒会活動での服装チェックや、定期的実施している昇降口指導により「制服を美しく着こなす」意識が定着している。</li> <li>・定期考査に合わせて生活実態調査を実施し、生活習慣の改善指導に役立てている。</li> <li>・高校の部活動との一体的な活動や連携を行い、活動環境を整備している。</li> <li>・給食だよりを毎月発行するなど、保護者と連携して食育を推進できた。給食への異物(虫等)混入が複数回あった。</li> </ul>			

自己評価		学校関係者評価		次年度への課題と今後の改善方策	
重点課題	重点目標	評価指標・活動計画	評価		学校関係者の意見
〔6〕 人権と環境に対する高い意識を育てる教育の実践	<p>* 生徒一人ひとりの人権尊重の意識を高め、人権感覚を磨くために、教育活動全般をととした人権教育の取り組みを充実させる。</p> <p>* 校舎内外の環境美化に努めるとともに、環境問題に対する理解を深め実践力を育てる。</p>	<p><b>評価指標</b></p> <p>①人権意見発表会や人権教育講演会等を実施する。</p> <p>②教職員人権問題研修会を実施する。</p> <p>③保護者への人権啓発活動を積極的に実施する。</p> <p>④生徒の社会貢献への意識を高める。</p> <p>⑤全校的なボランティア活動を実施する。</p> <p>⑥環境問題を意識した生活ができている生徒90%以上。</p>	<p><b>評価指標による達成度</b></p> <p>・各学級代表による人権意見作文発表会を実施した。 A</p> <p>・各学年の個人人権課題に応じた講演会を実施した。</p> <p>・教職員人権問題研修会を実施した。 A</p> <p>・PTA活動や学校行事、各種配付物を通じて保護者への啓発を行った。 B</p> <p>例年行っている中高合同人権問題研修会は昨年に引き続き実施できなかった。</p> <p>・各学級で道徳の時間に、社会貢献の意味や必要性について考えた。 A</p> <p>・様々な行事の時に、清掃や会場作り、資料作成等のボランティアを募集し多くの生徒が参加・活動した。 A</p> <p>・3学年の生徒・教員が琴江川の清掃活動を実施した。</p> <p>・ESDを推進し、持続可能な社会を作るためにはどうするか考え、ゴミの分別や省資源化(紙のリサイクル等)を徹底した。 A</p>	<p><b>総合評価</b></p> <p style="text-align: center; font-size: 2em;">B</p> <p>・生徒アンケートの結果、「相手の立場に立った言動ができている」生徒が95.2%（昨年度92.2%）であり、内訳は「そう思う」が47.6%（昨年37.2%）、「だいたいそう思う」が47.6%（昨年55.0%）となっている。総計では、3割上昇している。令和3年度の全国学力・学習状況調査の結果からも、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の質問に、「当てはまる」か「どちらかといえば、当てはまる」と答えた生徒の割合が、平成30年度が94.9%、令和元年度が97.4%、令和3年度が98.7%だった（令和2年度は実施していない）。この結果からも、周りの人を大切にすることが大事であると考えている生徒が増えてきていることが分かる。コロナ禍の中で、学校行事だけでなく、社会生活においても様々な規制があるが、それだけに生徒が周りの人とのつながりの大切さについてじっくり考えていることがわかった。</p> <p>・生徒の人権意見作文から、自分や周りの人の人権について深く考える生徒の姿が見え、人権意識の高さを感じることができた。</p>	<p>○今後も「人権と環境に対する高い意識を育てる教育の実践」を継続し、組織的・計画的な取組を充実させてください。</p> <p>○引き続き、生徒一人ひとりの人権尊重の意識を高め、人権感覚を磨くために、教育活動全般をととした人権教育の取り組みを充実させてください。また、校舎内外の環境美化に努めるとともに、環境問題に対する理解を深め実践力を育ててください。</p> <p>○引き続き、生徒一人ひとりの人権尊重の意識を高め、人権感覚を磨くために、教育活動全般をととした人権教育の取り組みを充実させてください。また、校舎内外の環境美化に努めるとともに、環境問題に対する理解を深め実践力を育ててください。</p> <p>○各学年の生徒の実態に応じて学習すべき個別の人権課題について、講演会や体験活動などを取り入れて、できるかぎり体験的な学習活動ができるようように工夫していく。</p> <p>○例年行っている人権かるた取り大会は、生徒の人権意識を高めるよいきっかけになっているが、昨年度に引き続き今年度も実施することができなかった。来年度は是非実施したい。</p> <p>○今年度参加者がいなかった「中・高生による人権交流事業」交流集会への参加者を積極的に募り、一人でも多くの生徒が参加できるよう呼びかける。</p>
		<p><b>活動計画</b></p> <p>・「社会貢献」の視点を重視した人権教育や環境教育をいっそう充実させる。</p> <p>・人権や環境について、保護者と生徒が共に学ぶ機会を増やす。</p> <p>・学年だよりやホームページ等を通じて、学校での人権教育や環境教育の学習内容を、保護者に向けて発信する機会を増やす。</p> <p>・市P連の活動等を通して人権教育や環境教育における地域との連携をいっそう深める。</p> <p>・資源ゴミの分別回収や廃油の回収など、現在の取り組みをいっそう充実させる。</p> <p>・体験的な学習活動を充実させるなど、人権教育の学習方法を工夫改善する。</p>	<p><b>活動計画による実施状況</b></p> <p>・「“届けよう。服のチカラ”プロジェクト」への協力活動を通し、人権尊重の視点から、社会のために自分に何ができるのか考えた。</p> <p>・阿南市の人権啓発標語募集呼びかけに、全生徒および多くの保護者の応募があった。</p> <p>・各学年だよりに臨時増刊号として、「人権について考える編」を発行し、生徒の意見や感想を掲載した。</p> <p>・富東人権新聞を年6回発行し、中学生の作文や意見も掲載した。</p> <p>・例年開催される阿南市人権教育研究大会は中止となったため、参加できなかった。</p> <p>・各学級に資源ゴミBOXを設置し、リサイクルできる紙類は資源ゴミとして分別収集した。</p> <p>・戦争体験者、外国人を招いた講演会で、実体験を聞き人権について考えた。</p>		

自己評価			学校関係者評価		次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標・活動計画	評価	学校関係者の意見	
〔7〕 教職員一人一人の資質向上と教職員集団の組織力向上	＊チームワークを大切にした教育活動の実践 ＊キャリアステージに応じた資質・能力の向上 ＊コンプライアンスの徹底 ＊働き方改革の推進	<b>評価指標</b> ①コミュニケーション・情報交換を密にして協働体制を築く。 ②研修・OJTにより資質向上を図る。 ③法令規則及びマナーを遵守し、報告・連絡・相談を徹底する。	<b>評価指標による達成度</b> ・コミュニケーション・情報交換を密にして協働体制を築いている。 B ・臨機応変な対応が求められる困難な状況の中、工夫と協力により個々の資質向上と組織力が高まっている。 B ・コンプライアンス、情報セキュリティについては、全体研修以外にも職員朝会時のミニ研修を行った。セルフチェックやアンケート結果から理解できている状況が確認できた。 B ・教職員が相談しやすい職場環境作りにも努め、校長・教頭との面談も随時行っている。 B	<b>総合評価</b> B (所見) ・中高全体の職員会議・研修や朝会以外に、中学校職員会や打合せ会等の機会を捉えて、共通理解を深め、遵守事項確認、意識徹底等が図れている。 ・教職員間のコミュニケーションもとれており、「報告・連絡・相談」しやすい職場環境の中、適切に「報告・連絡・相談」が行われている。 ・三者面談や生徒面接等で知り得た生徒・保護者等の情報を教職員間で共有できしており、指導にも生かしている。 ・教職員は各種の研修に主体的に臨み、資質向上のために自己研鑽に励んでいる。アンケート結果等からも教職員のコンプライアンスや情報セキュリティについての意識は高いことが確認できている。自動車運転する際の交通違反・事故には特に気をつけるよう徹底できている。 ・スクールカウンセラーとの連携により、問題や悩みを抱える生徒・保護者の不安を軽減し、よりよい学校生活を送ることができるような支援体制を整えている。	○今後も「教職員一人一人の資質向上と教職員集団の組織力向上」を継続し、組織的・計画的な取組を充実させてください。 ○引き続き、「チームワークを大切にした教育活動の実践」、「キャリアステージに応じた資質・能力の向上」、コンプライアンスの徹底、「働き方改革の推進」を目指してください。 ○管理職を中心として、教職員間の「報告・連絡・相談」をシステムとして徹底するとともに、「報告・連絡・相談」しやすい職員室・教職員体制を作るため、コミュニケーションの一層の充実にも努める。 ○業務の可視化、共有化、効率化により、働き方改革を推進し、ワーク・ライフ・バランスにも配慮した風通しのよい職場環境を作る。 ○コンプライアンスや情報セキュリティ、カウンセリング等について関係機関等と連携し、生徒の適応力を高めるとともに、教職員の遵守事項確認、意識徹底、実践力向上等を図る。 ○電子黒板、生徒用タブレット、指導者用デジタル教科書の整備に伴う効率的な指導体制を整える。 ○国や県の研究指定事業を活用し、生徒の学力向上や教職員の指導力向上を図る。
		<b>活動計画</b> ・教職員間のコミュニケーションの充実に努め、風通しの良い教職員体制づくりを推進する。 ・中高相互授業参観や中高合同教科会等の実施、機会を捉えての研修等により指導力・授業力の向上を図る。 ・法令規則・通知等の情報共有により、適切かつ迅速に、組織として対応できるようにする。 ・業務の可視化、共有化、効率化により、質を落とさず業務改善を図る。	<b>活動計画による実施状況</b> ・中高全体の職員会議や朝会以外にも中学校職員会や打合せ会等の機会を捉えて、課・学年・教科での周知事項や生徒の健康・学習・人間関係における注意すべき状況等について共通理解を深めている。また、普段のコミュニケーションを充実させ、相談しやすく風通しのよい教職員体制作りに努めている。 ・校種や教科や学年を超えた相互授業参観や中高合同教科会等の実施により、指導力・授業力の向上を図っている。電子黒板や生徒用タブレットの有効活用についての研修も実施している。 ・職員朝会や中学校職員会の機会を捉えてコンプライアンス、情報セキュリティ、カウンセリング等の遵守事項確認、意識徹底、実践力向上等を図っている。 ・あらゆる業務の可視化、共有化、効率化を目指した情報共有が、業務の質を落とさない業務改善につながっている。		